

ASEAN 災害医療連携強化プロジェクト 第1回タイ C/P 向け本邦研修にて講演しました (2017/3/2-3)

テーマ：ASEAN 災害医療連携強化プロジェクト、災害医療人材育成
場所：JICA 東京（東京都渋谷区）

2017年3月2日(木)、3月3日(金)、東京都渋谷区のJICA 東京でASEAN 災害医療連携強化プロジェクト第1回タイ C/P 向け本邦研修が開催され、当研究所の江川新一教授、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）、富田博秋教授（同部門 災害精神医学分野）が日本の災害医療、東日本大震災後の研究成果などについて講演しました。

ASEAN 災害医療連携強化プロジェクトは、JICA がタイ国家救急医療機関（NIEM）の協力のもと、2016年6月より3年間の予定で実施しており、ASEAN 各国の災害医療チームが連携・調整して、被災現場での対応や、平時の能力強化を行うメカニズムの構築を目指すものです。今回の研修目標として、①日本の災害医療の制度・体制への理解を通じ、自国の同分野の制度・体制における課題を抽出し、課題解決のための具体案を検討する、②日本の災害医療教育、人材育成機関の現状や活動への理解を通じ、自国の災害医療分野における能力強化について、具体的な強化策を検討する、などが挙げられています。今回はタイ全土より、タイ国内外の救急・災害医療に携わる現場の医師、看護師、大学関係者など11名が来日し、2月22日(水)より2週間にわたって日本国内の医療機関などで研修を受けました。

3月2日(木)、3日(金)の研修では、江川教授が「避難所運営ゲーム(HUG)」の実施を通じ避難所運営の課題抽出・方針決定について、富田教授が東日本大震災後の避難住民・支援者の精神状態推移・メンタルヘルスケアについて、佐々木助教が東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の状況、医療機関の受援計画について講演しました。研修生は2週間という長期の研修期間にもかかわらず、日本の災害医療体制、人材育成・教育体制から自国に活用できる知見を吸収しようと、熱心かつ活発に研修に臨んでいました。研修最終日には2週間の研修を通じ、各研修生がタイ国内外で実施すべき災害医療のアクションプランについて発表を行うとのことでした。

今回研修に参加した研修生から、次回は東日本大震災の被災県を訪問し災害に関する知見、災害医療に関するより実践的な知見を学びたい、との声が多くあがっているそうです。来年度以降の本プロジェクト研修会では、災害研のコンテンツをさらに多く使い、より充実した研修へと寄与できるのではないかと考えています。



【写真】

ASEAN 災害医療連携強化プロジェクト
第1回タイ C/P 向け本邦研修で講演する
江川教授、富田教授、佐々木助教